

2025年4月幹事会 企画幹事資料

1. 2025年度例会の準備状況

① 2025年9月例会

開催日：2025年10月3日（金）13:30～16:30場所

日本薬学長井記念ホール（東京）現地開催

講演	演題・所属・氏名	備考
一般公演	1) 13:30～14:15	済 演題
	「抗体医薬と抗薬物抗体により形成される免疫複合体測定法の開発」（仮） 協和キリン株式会社 小林 和弘 先生	済 演者 未 ご略歴 不要 依頼書
	2) 14:15～15:00	済 演題
	「神経障害性疼痛治療剤ミロガバリンの体内動態」（仮） 第一三共株式会社 山村 直敏 先生	済 演者 未 ご略歴 不要 依頼書
特別講演	15:15～16:15	未 演題
	腎トランスポーターやその他、機能評価に関連したご研究の発表 京都大学 横川 隆司 先生	済 演者 未 ご略歴 済 依頼書
司会	MSD株式会社	

② 2026年1月例会

開催日：2026年1月30日（金）

場所：東京ガーデンパレス（東京）現地開催

一般講演：興和株式会社より9月例会での発表は見合わせたいとの連絡あったため、繰り下げで来年1月例会での発表の可否を確認中。

特別講演：一般講演の内容と関連した先生を選定予定。一般講演が未定のため、まだ候補選定は未実施。

2. 2025年度第48回年会の準備状況

開催日:2024年11月20日(木)～21日(金)

場所:オークラアクトシティホテル浜松

事務局・担当幹事:岩佐・松田(MSD)、小森・永易常任幹事

- 1月例会において企画幹事に委任されたシンポジウム②の内容については2案のうち「標的タンパク質分解誘導」に関するシンポジウムとすることに決定した。
- シンポジウム①及び②の組織委員が決定し、組織委員会でシンポジウム演者、構成等の詳細を検討していく予定。

年会構成案：

1日目	
開会挨拶	14:00～14:05
会長挨拶	14:05～14:20
Showcase (シンポジウム1)	14:20～14:45 (5 min×5)
休憩	14:45～15:00
シンポジウム1	15:00～18:30
基調講演	15:00～15:50
一般講演×2	15:50～17:00
休憩	17:00～17:20
一般講演×2	17:20～18:30
意見交換会	19:00～21:00
企業展示紹介	

2日目 2日目の開始を昨年より10分早める	
会長講演	9:20～10:00
特別講演	10:00～11:00
休憩	11:00～11:20
Showcase (シンポジウム2)	11:20～11:45 (5 min×5)
シンポジウム2	11:45～16:20
基調講演	11:45～12:35
昼食	12:35～13:45
一般講演×2	13:35～14:45
休憩	14:45～15:10
一般講演×2	15:10～16:20
事務連絡	16:20～16:30

シンポジウム（案）

<シンポジウム1日目>

生理学に基づく生物薬剤モデリング（PBBM）の未来～その利活用と薬物動態研究の貢献～（仮）

趣旨：現在の医薬品開発において、Physiologically Based Biopharmaceutical Modeling（PBBM）は、薬物の生物学的挙動の予測において極めて重要な役割を果たしている。PBBMの活用により、バーチャルBE試験を実施することで、ヒト試験を必要とせず、効率的かつコスト効果の高い評価が可能となり、特に新しい治療法の開発や規制当局との対応において革新的なアプローチとなることが期待されている。

本シンポジウムでは、PBBMの利活用に焦点を当て、PBBMの最新の進展、特にバーチャルBE試験の実施とヒト試験のWaiver及び薬物動態研究の貢献、医薬品開発の効率化に関する議論の場としたい。

組織委員（候補）

- ◇ 前田和哉 先生（北里大学）
- ◇ 上林敦 先生（東京理科大学）
- ◇ 外川秀幸 先生（中外）
- ◇ 平林英樹 先生（ティー・エヌ・テクノス）

演者（候補）と講演概要

<基調講演>

- 上林敦 先生（東京理科大学）：
吸収に関する薬物動態研究、アプリケーションの利活用及びレギュラトリーサイエンスに関する全般的なご講演

<一般講演>

- 前田 先生（北里大学）：
Gastro-PLUS等で設定されている生理学的パラメータの背景について
- 駒坂 太嘉雄 先生（中外）：
企業におけるPBBMの活用① 薬剤（製剤）情報のPBBMモデルへの展開について
- Tycho Heimbach 先生（Merck、現地参加の予定）：
企業におけるPBBMの活用② Biowaiverを主に
- TBD 先生（PMDA）：上林先生よりご紹介いただく予定
当局から見たPBBMの活用と課題

講演資料については、Tychoにも議論に参加していただく方が有意義なシンポジウムとなると考えられるため、講演をしていただく先生方には可能な限り英語で資料作成を依頼することとする。

シンポジウム1に関して

- ☆ 平林さん（ティー・エヌ・テクノス株式会社）の組織委員継続可否について
年会の組織委員に関する内規

(5) 組織委員会の結成と役割

①企画幹事は意図する年会プログラムにふさわしいアカデミア及び企業研究者を選定して、組織委員会の委員就任を打診する。加えて幹事会メンバーの担当者を選定して協力を確認する。なお、組織委員会結成の準備は1月幹事会までに済ませておく。

ティー・エヌ・テクノス社は薬物動態談話会：非会員（CRO）

平林さんのご経験や組織委員として多角的な視点からシンポジウム1のプログラム案について積極的にご意見をいただき、年会参加者が有意義と感じるシンポジウムにできるようになることから、企画幹事は平林さんに組織委員の継続を依頼したいと考えている。平林さんの年会組織委員継続に関して、ご意見をいただけますと幸いです。

- ☆ シンポジウム1の基調講演及び一般講演の演者案について
シンポジウム1の基調講演及び一般講演の演者案についてご審議をお願いいたします。

<シンポジウム2日目>

標的タンパク質分解誘導の創薬応用と開発における留意点（仮）

趣旨：特定のタンパク質を分解誘導するケミカルノックダウンを主薬効とする薬物は新たなモダリティとして着目されており、今般、臨床試験も実施されている。このような薬物に関する技術的な展開や創薬への応用、さらに現状における課題や今後の展望を共有し、基本的な概念の学びの場とするとともに、医薬品開発における薬物動態や安全性評価に関する知識をUp dateする場としたい。

組織委員（候補）

- ◇ 澤崎達也 先生（愛媛大学）
- ◇ 井上貴雄 先生（医薬品食品衛生研究所）
- ◇ 今岡尚子 先生（第一三共）
- ◇ 大石昌代 先生（アステラス）

演者（候補）

<特別講演>

- 内藤幹彦 先生（東京大学）

<基調講演> 「総合的な講演」

- ◇ 澤崎達也 先生（愛媛大学）

<一般講演>

- ◇ 森下了 先生（セルフリーサイエンス社）：TPDのオフターゲット探索技術
- ◇ 井上貴雄 先生（医薬品食品衛生研究所）：安全性評価
- ◇ 今岡尚子 先生（第一三共）：薬物動態／安全性評価
- ◇ 大崎史雄 先生（アステラス）：薬物動態評価

- ◇ シンポジウム2の特別講演、基調講演及び一般講演の演者案について
シンポジウム2の特別講演、基調講演及び一般講演の演者案についてご審議をお願いいたします。

以上

参考資料

直近6年の年会と夏セミナーの概要

	夏セミナー			年会	
	セッション1	セッション2	セッション3	シンポジウム1	シンポジウム2
2019年	薬物間相互作用評価における内因性バイオマーカー研究の最前線	実践に役立つヒト薬物動態予測法の基礎と最前線	創薬における費と代謝物の評価：現状と課題	低分子創薬の可能性を拓く新規創薬ターゲット 加藤将夫先生（金沢大）、中島美紀先生（金沢大）、 中川徹也先生（大日本住友） 金井好亮先生（大阪大） 駒込弘之先生（東京医科大学大）	低分子創薬の動態最適化及びDDS戦略 新藤秀一先生（大阪大）、平林英樹先生（武田薬品）、 濱邊伸明先生（第一三共）
講演	大隈典子先生（東北大）、杉山雄一先生（理研）、山添廣先生（東北大）			松本邦夫先生（金沢大） 新藤秀一先生（大阪大）	
2020年	中止			深化する薬物動態制御技術 大槻純男先生（熊本大）、橋原洋之先生（東京大）、 平林英樹先生（武田薬品） 村松慎一先生（自治医大） 伊藤慎吾先生（熊本大）	新技術で切り開く創薬研究の近未来 水口裕之先生（大阪大）、小森高文先生（エーザイ）、 長坂泰久先生（アステラス）
講演				水口裕之先生（大阪大）	
2021年	トランスポーター機能のフェノタイプングのための新規ツールの利活用	まずこれだけ！細胞治療の基礎と最前線	企業研究者が対応すべきバイオアナリシスの規制と多様性	難溶性・難吸収性薬物の吸収予測に関する最新の知見 井上勝央先生（東大）、菅野清彦先生（立命館）、 土林敦先生（アステラス）	薬剤誘導性肝障害（DILI）低減に向けた薬物動態の 言説 伊藤晃成先生（千葉大）、中川徹也先生（大日本住友製薬）
講演	峯合孝広先生（東京医大）、出澤真理先生（東北大）、杉山雄一先生（理研）			山西芳裕先生（九工大） 榎坂肇博先生（千葉大）	
2022年	AMEDが進める創薬基盤推進研究事業と製薬動態研究ニーズ	医薬品開発における2030年の薬物動態の姿	アンメットメディカルニーズに応える薬物動態研究の動向 —新医療モダリティ時代に対峙するための温故知新的アプローチ—	Non-CYP代謝研究の新知見と創薬での活用 中島美紀先生（東大）、佐能正剛先生（和歌山医科大）、 大西秀一先生（塩野義）、神山 佳輝先生（アステラス） 深見達基先生（金沢大） 清水万紀子先生（昭和医科大）	バイオマーカー研究の最前線：探索から活用まで 橋原洋之先生（東京大）、斎藤嘉朗先生（国立衛研）、 大石昌代先生（アステラス）、三日月剛先生（第一三共） 橋原洋之先生（東大） 斎藤嘉朗先生（国立衛研） David Rodrigues（ファイザー）
講演	藤本利夫先生（湘南ヘルスイノベーションパーク）、浦野泰照先生（東大）、杉山雄一先生（城西国際大学）				
2023年	ニューモダリティの組織移行性への壁	トランスレーショナル研究への壁	進化するバイオアナリシスと薬物動態研究への壁	New modality の薬物動態評価～組織移行性・細胞内分布～ 西川元也先生（東京理科大）、大槻純男先生（熊本大）、 平林英樹先生（武田薬品）、岩崎紀彦先生（田辺三菱）	PBPK モデルの利活用の最新の動向 大谷 壽一先生（慶応大学）、前田和哉先生（北里大）、 濱邊伸明先生（第一三共）、濱邊貴夫先生（住友ファーマ）
講演	宮田完二郎先生（東京大学）、轟木聡一郎先生（静岡県立大）、杉山雄一先生（城西国際大学）			井上貴雄先生（国立衛研）	
2024年	低分子薬剤による新たな標的制御のための薬物動態研究～低分子薬剤の基礎と可能性～	中程に到達する薬剤を創出するための薬物動態研究～中程移行性の基礎と可能性～	生体内現象を精度高く予測する薬物動態研究～M&Sの基礎と可能性～	サイトーシスと中高分子薬の膜輸送 原田みさき先生（PMDA）、齋田啓之先生（JCRファーマ）、 濱邊那剛先生（塩野義）、井上勝央先生（東京薬科大学）	Special populationでの動態予測 谷川原祐介先生（慶應義塾大学）、大野能之先生（東京大学）、 浅野聡志先生（中外）、辻本泉英先生（製薬協）、 佐藤洋美先生（千葉大）
講演	古寺哲幸先生（金沢大学）、滝木理先生（東京大学）、玉井那巳先生（金沢大学）			二木史郎先生（京都大学）	
2025年					
講演					
	DDI	開発・個別化医療	ツール・評価法	製剤	バイオマーカー
	ヒト予測・種差	モダリティ	DDS	M&S	安全性